



“聴くことのできる人を育てる” NPO 法人研修グループ

# P.L.A ニュース 第57号

パートナーシップ アンド リスニング アソシエーション

2021年 5月 15日発行

発行者 P.L.A 事務所 〒101-0046 千代田区神田多町2丁目7番3号 三好ビル 801号室 月水金 11:00~16:00

TEL&Fax 03-3255-2882 E-mail : info@pla-keicho.org ホームページ:http://pla-keicho.org/

皆さま。コロナ感染が収束を見せない状況のもとで、いかがお過ごしでしょうか。訪問が制限されて高齢者の方とお会いすることもできず、さぞもどかしい思いをされていることでしょうか。傾聴ボランティアとしてのモチベーションの維持に苦勞されている方も多いことと思います。そんな中でも、P.L.A は感染症対策を十分に行った上で傾聴講座を開催したり、依頼を受けてオンラインで研修講師を担ったりと、活動を継続しております。

また、いくつかのグループは、傾聴活動としてなにかできることがないかと模索し、電話による傾聴や、オンライン傾聴、絵手紙での交流など、工夫を凝らして取り組みを始めています。そうした活動の一部をご紹介します。

## 昭島傾聴ボランティアグループ「さざなみ」の活動

### 〈ZOOMによるオンライン傾聴〉



「さざなみ」では、市内の高齢者福祉施設の利用者と ZOOM 傾聴を行っています。昨年4月先方職員からの提案で始まりました。ZOOM 傾聴をやってみたくという会員と、施設側職員が入居者の中から希望者を見つけ互いのスケジュールを合わせて、その日時に施設側からボランティアの方へ ZOOM の招待メールを送ってもらい、始めます。

(担当した会員の声) コロナ禍で始まったに ZOOM によるオンライン傾聴、昨年からの参加で1年が経ちました。意外に便利と気づいたのは、施設への往復時間の節約です。天候や交通手段も考えなくてすみます。対面での傾聴が、五感は勿論、第六感もフル稼働して成り立っていたものが、画面越しだと顔色や表情、息遣い、更には温もりなど把握しにくいことが多々あります。対応自体は対面もオンラインも基本は変わりませんが、微妙なところで不都合を感じる面があります。直接の接触や寄り添いが無いのは「傾聴」としてはどうか・・・が残りますが、この方法も寄り添いの一つとして定着していくような気がしています。

(施設側の感想) 当初は、高齢者がパソコンの画面で会話ができるのか? という意見もありましたが、毎日の楽しみが激減しストレスfulになられていた利用者にとっては、愚痴を聴いてもらえたり、昔話ができる楽しい時間になっているようです。対面での傾聴では、五感を使って話し手に寄り添えるのですが、パソコン画面(視覚)と声(聴覚)だけの情報では、信頼関係を築くのに時間がかかるのは仕方がないのかもしれませんが、しかし、このコロナ時代に傾聴を続けるためには、このハードルを乗り越えるしかありません。コツコツと創意工夫しながら、まずは「続けていく」ことが大切になってくると思います。(山谷 和幸)

### ★ 第31回P.L.A公開講座:傾聴講座(2021年秋)開催予定 ★

\*日時: 9/10(木),9/17(木),9/24(木),10/1(木),10/8(木) 全5回毎回木曜日【13:30~16:00】

\*会場: 国立オリンピック青少年総合センター会議室 \*定員:15名 \*参加費:全5回分 12,000円

# 練馬区傾聴ボランティア・こだまの会の活動



## ＜慰問ハガキの送付＞

活動に突然シャッターが下ろされ、訪問していたあの方この方の安否を気遣うもの他人の私たちにはどうしようもありません。でも、何かできるはずと知恵を絞り、慰問ハガキを送ることにしました。そしてこだまの会の中でハガキ班を数名で結成しました。が、問題は切手代の資金とハガキの内容です。

資金の方は、社会福祉協議会ボランティアセンターから中央共同募金会が「with コロナ草の



根拠援助成」を募集中との情報を得、早速応募して幸運にも助成金を頂くことができました。ハガキの内容については、絵を描くというアイデアが出たものの誰も描けない。そこでボランティアセンターに相談しました。センターなら絵を描くボランティアにつないでもらえると思ったのです。凶星でした。一番目は子どもさんの団体、次にイラストレーター、子育て中のママ、高校生、シニアのサークルの方々、……。今では、2団体、8名の個人の方々が描いてセンターに届けて下さっています。絵ハガキを見

て先ず喜ぶのは私たちです。どの絵からも温かな気持ちが伝わり、皆でワイワイと相談しながら、渾身のひと言を添えて発送しています、この作業がハガキ班にとって、とても楽しい時間です。半年間で高齢者施設 18 か所と 2 名の個人宅へ計 200 枚ほどお届けしました。絵ハガキは今も滞ることなく届けられています。

一方、受け取られた方や施設からもお礼にと自作の絵ハガキや小物が送られ、描き手のボランティアの方にお届けして感動されていますし、私たちのやりがいも高まります。さらに、センターの方がボランティア活動に興味を持った高校生とお話する機会を設けて下さいました。頼もしい次世代です。こうして、新たな活動から思いやる心の輪が広がっています。

(篠 文子)

## ★ 今年度コロナ禍で開催予定の研修(2021年5月~12月) 順不同 5/10現在 ★

- \***連続講座**：白井市社会福祉協議会（以下社協）、荒川区社協、町田市社協、東大和市社協、船橋市福祉サービス公社、株式会社コングレ、あきる野市社協・福生市社協・日の出町社協共同開催、練馬区傾聴ボランティア・こだまの会
- \***その他の講座**：NPO 法人市民の図書館・公民館こがねい、参加型システム研究所参加型福祉研究センター、町田市心配ごと相談員研修、生活クラブ生活協同組合パートナーシップ促進センター
- \***フォローアップ研修**：江東区傾聴の会、厚木市社協、昭島市傾聴グループ「さざなみ」、あきる野市社協・日の出町社協・福生市社協共催

## P.L.Aニュースの今後の予定

今回ご紹介できなかった『電話による傾聴』に取り組んでいるグループや自治体の様子などをお伝えします。まだ P.L.A で把握できていない皆さまの取り組みもあることと思います。またなにか取り組みたいと思いつつも活動に繋がらず、会員の士気に懸念を感じているグループもあることでしょう。P.L.A として、ぜひお手伝いをしたいと考えています。ご意見やご要望、ご感想をお寄せください。

❖お詫び：ニュース 56 号の私の活動報告④の筆者名に誤りがありました。

正しくは、豊島区「傾聴みみずく」山本滝夫さんです。お詫びして訂正いたします。